

青連協会長対談シリーズ

第4回 日本商工会議所青年部（YEG）伴会長との対談

日本商工会議所
青年部（YEG）
伴 靖 会長



青連協
醍醐 正明 会長

日時：平成28年2月10日（水）午後1時～
場所：全法連会館 6階 応接室



（写真左：醍醐青連協会長、写真右：伴会長）

醍醐

伴会長には、昨年11月に法人会全国青年の集い茨城大会「部会長サミット」にお越しいただきました。YEGと法人会は接点が多いため、いろいろと情報交換する場を設けたいと思い、本日この対談を設定させていただきました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

伴

こちらこそ、よろしくお願いいたします。

醍醐

最初に、自己紹介をさせていただきます。

私は東京都大田区の雪谷法人会に所属しております。入会のきっかけは、父が組織委員会（会員増強を行う委員会）を担当する副会長を務めており、あるとき「組織委員会を担当していて、なぜ息子を青年部会に入れられないのか」という指摘を受け、半ばしぶしぶ入会した次第です。

最初の2年間はほとんど活動していませんでしたが、たまたま法人会の会合に参加したところ、参加者の皆さんが積極的に声をかけていただいたこともあって、法人会に馴染むことができ、今に至っています。法人会青年部会では、雪谷法人会の青年部会長を2期4年務め、その後、東京法人会連合会の青年部会連絡協議会の副会長を経て、昨年6月に会長に就任しました。

会社は東京の湾岸沿い中心に倉庫業を営んでおり、創業58年目になります。趣味はマラソンを10年ほど前から続けています。先日も「新宿シティハーフマラソン」で、この全法連会館の周辺を走って、1時間44分で完走しました。最近、体力の衰えを若干感じているので、何とか走ってしのいでいます。

伴

私は宇都宮商工会議所青年部に所属しています。現在の宇都宮市長が青年会議所の理事長を務めていた当時、私は事務局長を務めており、その現市長が商工会議所にも加入していたことから、有無を言わず入会させられました。

入会した当時、私は商工会議所活動はあまり熱心ではありませんでしたが、40歳で青年会議所を卒業した頃から、少しずつ活動を始めました。

その後、平成24年に宇都宮商工会議所青年部の会長に就任、その翌年、全国大会の会長をさせていただきました。日本YEGの会長は全国大会を開催した県連から輩出するという規約があり、翌年に筆頭副会長、今年度日本YEGの会長に就任しました。

家業は宇都宮で印刷業を営んでおり、お陰様で開業から90年を超えました。趣味は、お城や寺社仏閣を回ることです。名城100選というものがあるのですが、これまでに81カ所行きましたので、残り19カ所です。最近、YEGの関係で大分県竹田市に行く機会があり、瀧廉太郎の「荒城の月」の題材となった岡城を見学してきました。YEG会長として各地の単会を回らせていただき、各地の文化に触れたり史跡などを訪れるのも楽しみの一つですね。

醍醐

ありがとうございます。法人会には、いつ頃加入されたのですか。

伴

全国青年の集い栃木大会の4年前ですから、平成18年頃ですね。先輩からお声が掛かって入会しました。



法人会と商工会議所について

醍醐

続いて、法人会と商工会議所について、お話をさせていただきたいと思います。

戦後、社会の体制が大きく変わる中で、納税制度もそれまでの賦課課税制度から納税者が所得を計算して納税する申告納税制度に変わりました。しかし、インフレにより納税者が急増したことや、税務署、納税者ともに十分な準備ができなかったため、過少申告や無申告が相次ぐなど、大きな混乱が生じました。そのため、税務当局の呼びかけもあり、納税者自らが税の知識を習得し、納税者の声を税務行政に反映させるという目的のもと、各地で「法人会」が設立されました。現在、関西地区を除いて全国に441単位会があり、税を中心にさまざまな活動を行っています。

伴

商工会議所は商工業の総合的な発展のために、明治11年に東京、大阪、神戸の3カ所で設立されました。NHK朝の連続ドラマ「あさが来た」で大阪の商法会議所が登場しましたが、正にこれが、現在の商工会議所の前身です。明治25年に各地の15商業会議所が集まり、連絡組織を作

ろうとの流れで進んでいきます。その後、大正 11 年に「日本商工会議所」という名称になり、現在に至っています。

青年部（会）について

伴

青年部は各地の商工会議所において、ばらばらに立ち上がりました。約 60 年前に、京都の宮津において青年部が出来たのが最初とされています。

その後、各地の青年部が連合会として団結しようという流れが大きくなり、昭和 54 年に「全国商工会議所青年部連合会」として立ち上がりました。現在は正式名称を「日本商工会議所青年部」、呼称を「日本 YEG」としています。現在、全国に 410 の単会があり、会員数が約 3 万 2 千名となっています。

醍醐

法人会では、昭和 40 年に品川で最初の青年部会ができました。その後、各地で青年部会ができ、平成 3 年に全法連青年部会連絡協議会という全国組織が発足しました。

現在は、441 の単位会の全てに青年部会が設置されており、部会員数は約 3 万人です。全国的には 50 歳定年が主流となっています。

青年部（会）の事業活動について

醍醐

次に、それぞれの会の事業活動についてですが、法人会は「税のオピニオンリーダーたる経営者の団体」という理念のもとで、青年部会の活動は「租税教育活動」が大きな柱となっています。それに加え「部会員増強運動」にも積極的に取り組んでいます。

「租税教育活動」は、日本の未来を担う子供たちに税の仕組みや大切さを理解してもらい、国や地域社会を愛する気持ちを醸成させる活動です。全法連青連協では、平成 23 年に全ての単位会で租税教育を実施しようとの取り組みを始めました。当初は半数程度の実施でしたが、毎年、全国青年の集いで活動事例を共有する中で、自分たちも租税教育をやっていこうという動きが各地に広まり、現在では 441 単位会のうち 431 会で何らかの形で租税教育活動を実施しています。

学校での租税教育では、初めに「税金は必要だと思う人？」と質問すると、大半の生徒が「嫌だな」「払いたくない」といった反応なのですが、授業の最後に同じ質問をすると、みんなが「税金は必要です」という答えを返してくれます。授業を通して、子供たちが税金の大切さを理解してくれることが、私たちの大きなやりがいになっています。

このように、法人会では公益性の高い事業を行っていますが、やはり多くの仲間がいなければ、より充実した活動ができないことから、部会員増強運動にも力を入れて取り組んでいます。しかし、法人会は商工会議所と比較すると知名度が明らかに低いと感じています。経営者の中にはご存知の方もいるのですが、サラリーマンの友人と話していて「法人会」と言っても、「法人会って何？」みたいな反応が結構多くあります。そのため、部会員を増やすためにも、法人会の認知度を向上させなければいけないと考えました。この対談もその策の一つとして、対談の内容をホームページにアップすることで、一般の皆様にも法人会を知ってもらおうきっかけになればと考えています。

伴

商工会議所の活動の目的・役割は、地域内における商工業の総合的な発展を図ることです。その中でわたしたち青年部の活動は、まず研修があり、それとともに横の連携、連帯を図ることがメインになってきます。

そして、実は商工会議所の定款の最初の項目は「提言活動」なんです。青年部でもこの提言活動が活動の柱の一つであると思っています。したがって、研修、交流、そして提言、これが青年部としての活動の大きな根幹と考えています。

研修では、様々な会員向けの研修や、「ビジネスプランコンテスト」というものを開催しています。これは、全国のメンバーに新しいビジネスプランを募り、書類審査で20~30プランを選抜して、ビジネスブラッシュアップの講習に招待します。そこで銀行の融資担当者やコンサルタントなどの多方面の方々から、その事業に対して「それは実現可能か」「こういう視点も必要だ」などの指導やアドバイスを受けます。プレゼンテーションの仕方などの研修を受けた後に、実際に発表していただきます。グランプリには日本商工会議所会頭賞をお渡しします。これまでは、実際に実現したビジネスプランもありますよ。

私自身も、昨年、この審査会に初めて参加したのですが、私たちが商売になりそうだと思う視点と、銀行やコンサルタントの方々の視点が違って、非常に勉強になりました。

他にも、単会が行っている事業を表彰する YEG 大賞という賞もあります。各地の事業を紹介することによって「この活動、いいね」から「ちょっと形を変えて、うちでもやってみよう」となれば、全体が良くなると思います。

提言活動について

伴

さらに、基本的に年2回の提言を行っています。税制提言と総合政策提言の2つです。

税制提言に関しては、親会の税制専門委員会に提言書を提出し、毎年秋の政府税調等への親会の税制提言の中に私たちの提言を反映していただきます。私たち青年部の提言内容は、親会とは違う青年部らしい切り口であることが必要だと思います。例えば事業承継について、親会はどこからかという渡す立場からになりますが、青年部は受ける立場からの提言になります。また、全国の約125万の会員企業の平均社員数が5人ですから、そういった平均的な企業が求める税制提言であるべきだと思います。

二つ目の政策提言については、全国大会で青年部から会頭に提言書を直接お渡しする「手交式」を行います。その内容も日本商工会議所からの各方面に対する提言に反映していただきます。

それともう一つは、各地で「故郷の新しい風会議」という事業をやっています。これは、中央官庁や各地の公務員の方との懇談を行う事業です。この国や地域を思っている同じ世代の公務員の方々と交流をはかり、私たちの経営の参考にするとともに、公務員の方々にも自分たちの活動に活かしていただくためのディスカッションを行っています。

そのほか、海外とのビジネスマッチングや業種別部会における業種間、異業種間のビジネスマッチングなどの事業を各地で展開しております。

醍醐 税制提言については、親会に提言されているということですが、青年部らしい切り口の提言を、どのような方法でまとめられているのですか。

伴 実は、これが非常に難しいところでもあるのですが、今年は、私が4月から2ヵ月半くらいをかけて、全国の9ブロックを訪問しました。その際に各単会の会長に自身の商売上、どのような税制の変革が必要なのか忌憚のない意見を出してもらい、さらに、全体でのディスカッションを経て、提言内容につなげています。

醍醐 単会を集めたブロック会も行っているのですか？

伴 親会のブロック会議があるのですが、その際に日本 YEG の時間を頂き、意見を聴いたり、ディスカッションを行っています。私は、全国の青年部メンバーの代弁者でありたいと思っています。

醍醐 分かりました。大変参考になります。

今、提言活動についてお話しいただいたのですが、法人会でも親会の税制委員会が税制提言を10月に行っています。法人会は、「税のオピニオンリーダー」と言いながら、これまでどちらかと言うと「税の入りの部分」即ち、税制はどうあるべきかを中心に提言を行ってきました。今後は「税の出の部分」いわゆる税の使い道についても考えていくことが必要だと思います。そのため、今年度から青年部会で税の使い道についての勉強を始めました。

1年目は税の課題や財政上の問題点について勉強をし、来年には何らかの形で提言につなげることを目指して活動を始めたところです。YEG では、税制提言や政策提言の中に、税の使い道についての提言も盛り込まれていますか？

伴 医療保険制度や教育などに関する税の使い道についての意見がディスカッションでは必然的に出てきますが、提言自体に盛り込むことは比較的少ないですね。ただ、単に税制提言でこういう税制が必要だ、この分野の税率を下げて欲しいと言うだけではいけないと思いますし、この分野はもっと税を投入しても良いのではという内容を少し盛り込んだりしています。他にも、中心市街地の活性化について、空き家店舗に対する税率を上げて、もっと活用する頻度をあげるようにしていくことも必要ではという意見を言ったところ、親会の税制専門委員会の大学教授から「何を言ってるんだ」とたたかれたこともありましたね。

一般的に、商工業者の税制提言は「税率を下げてくれ。」というイメージが強いと思うんですが、それだけでは成り立っていかないと思います。

醍醐 おっしゃる通り、代替案がないと、説得力がなくなりますね。ありがとうございます。大変参考になりました。もう一つの「総合政策提言」はどんな内容ですか。

伴 実務に携わる私たちの年代の視点から、事業承継の問題や廃業して新しい事業展開をするためにはこういう政策が必要だとか、いろいろな切り口で、細かい提言ではなく大まかな方向性を提言しています。

会長の任期について

醍醐 ありがとうございます。（質問ばかりで申し訳ないのですが）わたしたち法人会は任期が2年ありますので「1年目はどうする？2年目は？」というようにやっていますが、YEGは、1年という短い任期の中で、どのように次の代に引き継いでいくのですか。

伴 実は、私は日本YEGに出向しており、今年で6年目になるんです。YEGの会長は、いろいろなことをやっていく必要がありますので、出向して勉強をするんですね。また、全国のメンバーと知り合いにならないと全国大会も開催できないんですね。先ほどもお話したとおり、YEGの会長は全国大会を2年前に開催した県連から輩出するという規約がありますので、いきなり会長にはなれないんです。

醍醐 なるほど。そういう仕組みがちゃんとできているわけですね。

伴 はい。大体、直前の会長と次年度の会長候補とは4年くらい日本YEGと一緒に仕事をしています。そうすると、継続する事業と変えていくべき事業がはっきり見えてきます。このようなつながりで次期会長に引き継いでいきますね。

醍醐 そうすると、その全国大会を開催することが決まった時点から、ずっと出向になるわけですか。

伴 はい、そうですね。その中でつながりはできてきますね。

また、この出向制度が面白いなと思ったのは、全国を訪問しないと全国大会の開催はもちろん、会長にもなれないというところですね。会長として全国のメンバーの思いをどう汲み取って、その代弁者として何ができるのかが課題ですね。

全国大会について

醍醐 ありがとうございます。続いて、全国大会についてお話ししたいと思います。

法人会は「青年の集い」という全国大会を毎年1回、原則として11月に行っています。開催地は各県持ち回りで、局連ごとに順番が回ってきます。

1日目は、各地の単位会を代表する部会長が集まり、国税局単位の局ブロックの代表が、租税教育活動のプレゼンテーションを行い、その事例を全員で共有して、次年度の自分たちの活動につなげていきます。

2日目は、部会長サミットです。毎年テーマを決めて、10名程度のグループディスカッションを行い、その結果を発表する形式です。今年は「部会員増強」をテーマにしました。

その後、部会長以外の方々も参加して、2千名程度で大会式典、記念講演、大懇親会という形で開催しています。今年度の茨城大会の記念講演では、地元の水戸市内の小学生を招待して、「はやぶさ」の開発で有名なJAXAの的川先生に講演いただきました。

YEGの全国大会はどのような内容ですか。

伴 全国規模の大会は、年に2回あります。ひとつは、11月の全国会長研修会です。今年度と次年度の単会会長と県連会長が参加します。その他に、熱意ある会員や事務局職員を対象にした分科会もあります。

もう一つは、2月の全国大会です。3~4年前くらいは、登録数は3千名程度でしたが、このところ一気に増えてきました。昨年の京都大会が約6,200名、今年の岡山大会が現時点で約5,800名の登録となっています。総会はもちろんですが、開催県の各地の商業、文化、食などに関する分科会やビジネスマッチングなどの分科会を行っています。翌日の式典後に、会頭に政策提言書をお渡しする「手交式」を行います。また、「ビジネスプランコンテスト」のグランプリの発表や記念講演を行っています。ちなみに、今年の岡山大会では、失敗から学ぶことをコンセプトに実業家の堀江貴史氏の講演を予定しています。

開催県は、さきほどの会長研修会も同じですが、日本を東（北海道・東北・関東）・中・西に3分割したブロックの輪番制です。さらに、各ブロックにおいても、各地域、各地区の輪番制となっています。ですから、一度開催した県が次に開催するのは単純に大体50年後くらいになるわけですね。そのため、日本 YEG 会長も50年に一度しか輩出できないこととなります。ただ、このように順番で開催県が回ってきますので、各地から必ず会長が輩出されるということになり、この点も YEG の一つの特徴かもしれないですね。

醍醐

ここ数年、全国大会の登録者数が増えているということですが、何か手を打たれているのですか。

伴

5年前の2月に仙台大会があり、その1カ月後に東日本大震災が発生しました。このことを転機に、私たちの活動をもっと考えていくべきだという気概を持つメンバーが増えてきたと思います。その後、登録数は年を追うごとに増えていきました。震災をきっかけに、みんなが、全国大会の意味を問い始めたということだと思っています。

また、翌年の富山大会以降は、特に分科会に力を入れてきましたね。その地域の企業と産業と文化を全国のメンバーに知ってもらいたい、そんな想いで分科会を創意工夫しながら企画・運営してきました。言い方は悪いかもしれませんが、以前の全国大会は、どちらかというと観光的な要素が強かったと思っています。

醍醐

最後に、お互いの会へのメッセージを交換したいと思います。まず、伴会長から法人会青年部会にメッセージを頂ければと思います。

伴

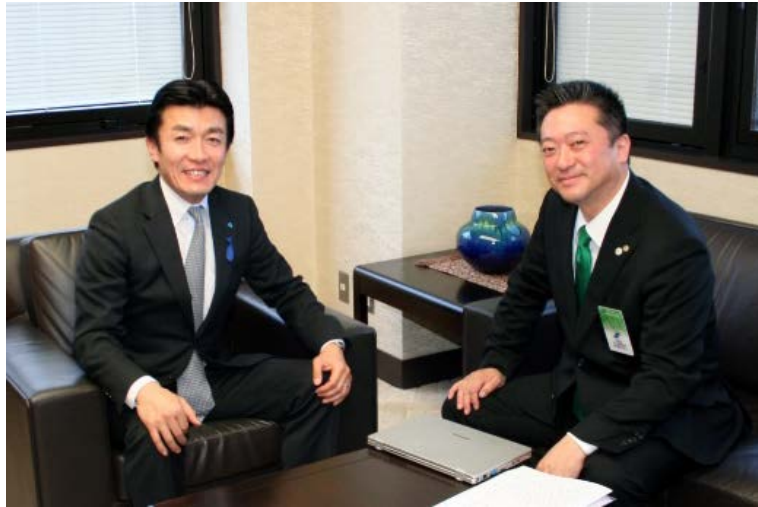
私たち YEG は、法人会をはじめ JC、商工会連合会などの青年経済団体と、名称はもちろん理念や事業活動などの違いはありますが、各地域でしっかりとした商売をし、従業員を雇用し家族を養いながら生活し、そして次の世代につないでいくという意味ではすべて同じだと思っています。すなわち、私たちは日本という国で、同じ時代を共に生きていく仲間だと思っています。今後、お互いに協力したり、切磋琢磨しながら活動していきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

醍醐

どうもありがとうございます。私も地元の仲間と、同じ地域で、同じ後継者、経営者という立場で仕事をしている仲間だから、お互いに頑張っていこうよという話をよくするんです。今日、YEGのお話を聞かせていただく前は、法人会と同じ年代、同じ地域ではありますが、私たちと少し違うところがあるだろうと思っていました。しかし、お話を伺ってみると、共通点もたくさんありますね。YEGは商工業の活性化を通じた社会への貢献、法人会は税を中心とした社会への貢献という違いはありますが、地域を盛り上げ、日本全体を活性化させていくというところは全く同じだと思います。伴会長は来年度には次の会長にバトンを渡されるわけですが、引き続き、新しい会長とも是非こうした機会をつくっていただいて、お互いに情報交換しながら、切磋琢磨して日本の活性化に少しでも貢献していきたいと思います。どうか、今後ともよろしく願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

伴

こちらこそ、ありがとうございました。



伴 靖【ばん やすし】

1967年生まれ、栃木県出身。

1991年に東京工芸大学画像工学科を卒業後、株式会社総合印刷入社。

1998年に伴印刷株式会社取締役、2013年に株式会社総合印刷代表取締役就任。現在に至る。

YEGでは、宇都宮 YEG 会長（2012年）、全国大会とちぎ宇都宮大会会長（2013年）、日本 YEG 筆頭副会長（2014年）を歴任後、2015年より日本 YEG 会長に就任。